

数字

で見る
現場

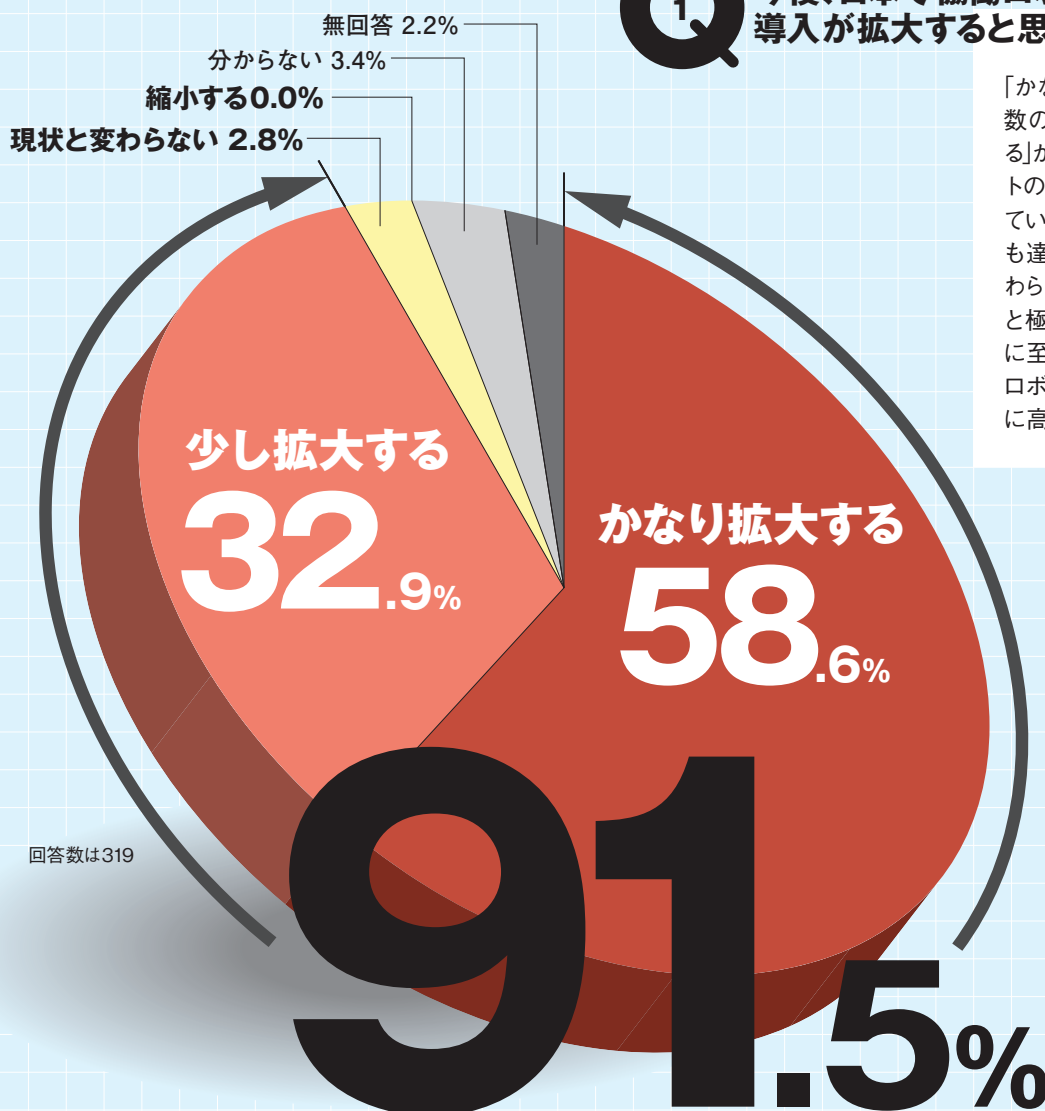
調査テーマ「協働ロボット活用の現状と期待」

9割が協働ロボ導入拡大と予想 最大のネックは「価格」

協働ロボット導入に向けた機運が高まってきた。多品種少量の生産における自動化や作業者の負担軽減を目指して、人と共に働けるロボットが求められるようになってきたからだ。今回の調査で9割以上の回答者は、協働ロボットの導入が今後拡大していくと予想した。協働ロボットの導入が進んでいかないとした回答者は極めて少なく、導入への期待が高いことが分かった。



1 今後、日本で協働ロボットの導入が拡大すると思うか

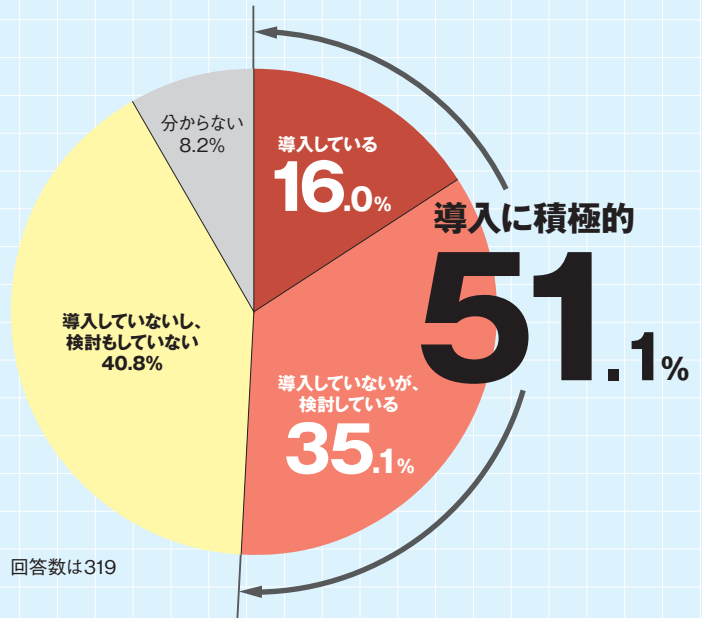


「かなり拡大する」が過半数の58.6%、「少し拡大する」が32.9%と、協働ロボットの導入が拡大すると考えている回答者が91.5%にも達する。一方、「現状と変わらない」との回答は2.8%と極めて少なく、「縮小する」に至っては0%だった。協働ロボットへの期待が非常に高いことを表している。



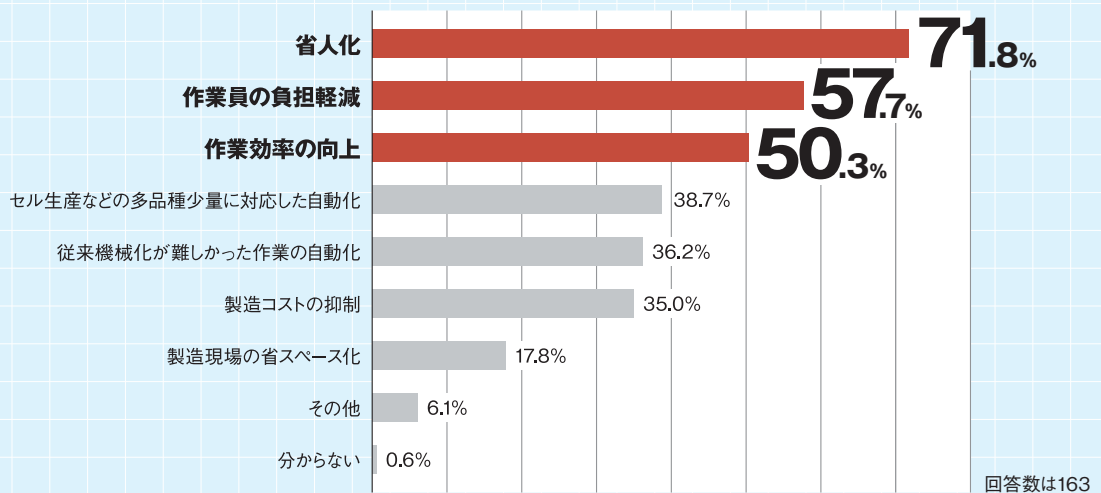
あなたの所属する組織では、協働ロボットを導入しているか

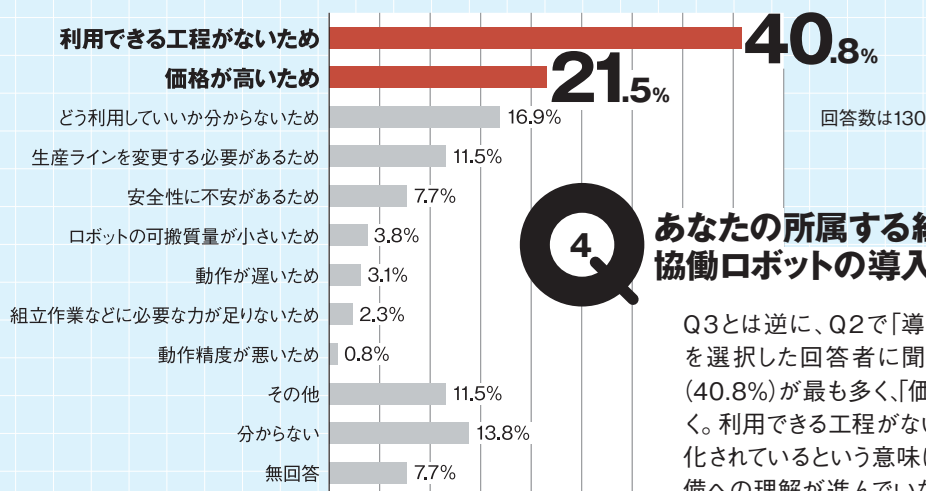
実際の導入状況を聞いたところ、「導入している」(16.0%)と「導入していないが、検討している」(35.1%)を合わせた51.1%が、所属する組織で協働ロボット導入の動きがあると回答している。「導入していないし、検討もしていない」も40.8%に及ぶものの、生産現場の関心の高さがうかがえる。



あなたの所属する組織が、協働ロボットを導入する目的は何か

Q2で「導入している」「導入していないが、検討している」を選んだ回答者に聞いた。過半数が、「省人化」(71.8%)と「作業員の負担軽減」(57.7%)、「作業効率の向上」(50.3%)を挙げている。現場のさらなる生産性向上が主な導入の目的のようだ。

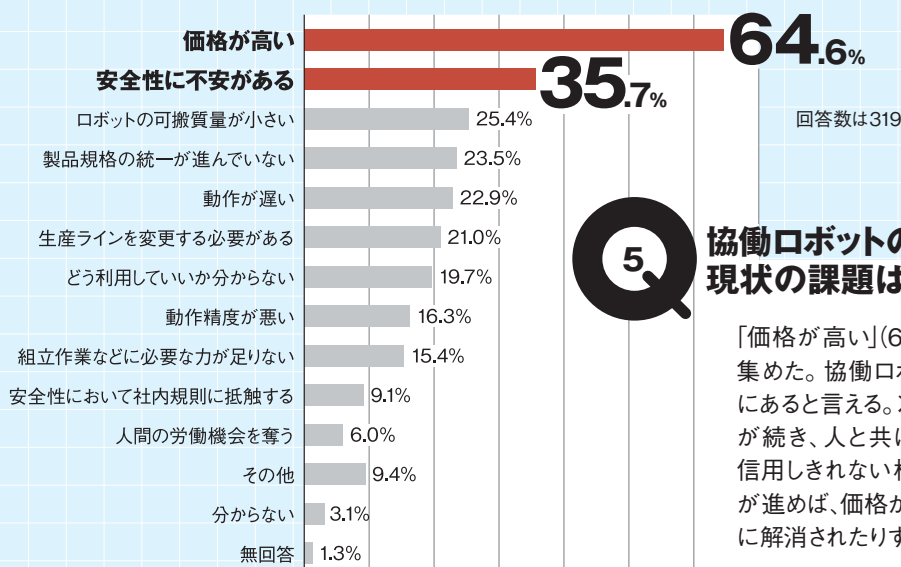




4

あなたの所属する組織が、協働ロボットの導入を検討しない理由は何か

Q3とは逆に、Q2で「導入していないし、検討もしていない」を選択した回答者に聞いた。「利用できる工程がないため」(40.8%)が最も多く、「価格が高いため」(21.5%)がそれに続く。利用できる工程がないという回答には、そもそも既に自動化されているという意味に加え、協働ロボットという新しい設備への理解が進んでいないことも表しているのかもしれない。



5

協働ロボットの導入における現状の課題は何だと思うか

「価格が高い」(64.6%)が唯一半数を超える回答を集めた。協働ロボット導入の最大のハードルはコストにあると言える。次に「安全性に不安がある」(35.7%)が続き、人と共に活動する新しいタイプのロボットを信用しきれない様子もうかがえる。ただし、今後普及が進めば、価格が下がったり、安全性への不安も徐々に解消されたりすると予想される。

回答者プロフィール

調査方法：ニュース配信サービス「日経ものづくりNEWS」の読者を対象に、アンケート用URLを告知した上で回答を依頼。2017年3月31日～4月7日に実施し、319の回答を得た。

